



三笠ニューズ

発行所
東京都千代田区猿樂町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(3292)1411 大代表
テレックス 222-4607
郵便番号 101
PR 旬報 年 4 回 発行

搭乗型振動ローラー MRX-440 いよいよ完成

土の輾圧(ソイルコンパクション)といえば、小はランマー、コンパクターから、大は大型ローラーまで様々な場所に、様々なサイズの機械が要求されます。小型の振動ローラーが活躍する場も少なくありません。しかしながら小型振動ローラーという、オペレーターが歩きながら長いハンドルを後で操作

するウォークビハインドタイプが主流ですが、輾圧効果の割には作業に大変な労力を必要とします。この為ローラーに乗って楽な作業が出来、なおかつ大型機の使えない現場で大型機並の輾圧力が欲しいというローラーへの要望は、近年益々大きなものとなってきています。

この要望に応えてこの度登場したのが三笠の、九トン最新鋭アーティキュレートッドタイプ搭乗型振動ローラーMRX-440型です。振動ローラーには輾圧という仕事を効率良く行うために、より大きな輾圧力、充分な登坂力、故障のない高い耐久性などが要求されますが、更にこれに加えてオペレーターを大切に居住性、軽快な操作性、又経済性も重要なファクターです。

三笠技術陣がMRX-440を開発するに当たって、永年培った振動ローラーのノウハウと、小型ながら驚くほどの振動力を有するインパクトローラーの技術を駆使し、更にテストを重ねて完成にこぎつけました。その結果、ドイツ、アメリカ、カナダ、スウェーデンなどの世界のメーカーと比べ、あらゆる点から見て、搭乗型ローラーとして

今までにないサイズと能力を持った極めて優れたローラーを作り上げることに成功しました。このローラーの特徴は、

強力な輾圧力

このサイズの機種としては現在世界市場に見られる中で最大の振動エネルギーを引き出し効率の高い輾圧力を発揮します。

高い登坂力

28・5馬力の大型エンジンから繰り出す登坂力は駆動力を重視した新設計油圧回路と相俟ってこの種のローラーとしては最大級の25度をクリアしました。

オペレーターに優しい居住性

ショックアブソーバーと機体の重量バランスを巧みに組合せ、

これが振動ローラーかと思う程オペレーターに極めて優しい居住性を提供します。優れた耐久性

世界でも定評ある「三笠のノントラブルマシン」の一つとして、永年の経験を結集、過酷な使用条件にも充分耐える余裕のある設計により完成された耐久



MRX-440

性が売り物です。軽快な操作性 ステアリング、走行システム、振動システムの全てを油圧駆動とした極めて簡単軽快な操縦性は優れた機動性を持ち、スピーディーで快適な輾圧作業が行えます。

数々の安全対策

前後進レバーがニュートラル時のみエンジン始動が可能なニュートラルスイッチを装備、スタート時の誤操作、誤発進を防止します。又OKモニターの採用により油圧回路やエンジンの動きを常時監視、異常があればモニターで警告します。更に、ブレーキシステムにはネガティブブレーキを採用、エンジン停止時や走行油圧系統の油漏れ等の異常時にもこのネガティブブレーキが作動し安全です。又万が一牽引が必要な時は、このブレーキを簡単に解除できる油圧解除装置も標準で装備するなどいたれりつくせりの設計となっています。

容易なメンテナンス

シートの下のエンジンルームがフルオープンとなる為、日常の整備・点検が容易に行える等、数々の特長を持った画期的な振動ローラーです。



年頭の辞
代表取締役社長
京谷達也

近い将来これらを取り入れた新しい三笠製品が出現する時も必ず参ると確信するものです。年頭にあたり本年も繁栄の年であり、皆々様にとって良い年であり、そして、倍旧のお力添えをたまわりますように、心から祈念を致します。

◆絵のことば

日本各地から、代表的な猿を八点。ちなみに金沢の張子は今年の年賀切手に、また柴又の猿は三笠カレンダーの表紙を飾っています。

永井 郁

三笠製品販売代理店

営業セミナー開催

十一月十二日、十三日の両日、関東甲信越地区の三笠代理店から選抜された営業員の方々に、集まり頂き、トップセールスマンセミナーが開催されました。

以前はディーラーの営業員の方々に時々三笠の工場を見学して頂き、そこでランマー・パイプレーター等々の製品群に、楽しんで頂きましたが、その方々もすでに会社の重鎮になられてしまったため、そのあとに続く、今営業の最前線に活躍されている若い方々に改めて三笠産業の館林・春日部両主力工場と、春日部の部品サービスセンターを見学して頂き、三笠産業の企業戦略、製品開発等を知っていただくことによって、メーカーとしての三笠産業と、三笠代理店のトップセールスマンの皆様の



共同目標の策定を目指すのが、今回の主目的でありました。

実際のメーカーの工場を見学するのは初めての方もおられ、工場内のハイテクを駆使した工作機械に目を張る方、新製品であるマイコンパイプレーターが何故マイコンなのか、カット見

本を見たり、実際に動かしたり、組立て作業を見たりで納得される方、カタログでしか見たことがないというパイプ・トロウエルを動かしたりと、新鮮な三笠を感じて頂いたと思います。

また懇親会に於いてもご参加の皆様から、三笠に対する貴重なお意見を伺い、また、三笠からは京谷専務を初め各担当者が厳しいご質問に対しても丁寧にお答えをしました。

三笠産業として始めて代理店のトップセールスマンの皆様に、お集まり頂く会という事で、地域を限定し、セミナーとして、は総花的なものとなったかもしれませんが、参加された方々から有意義な催しだった、参加して良かったという言葉を伺い、この会がさらなる目標を持ち、大きく成長するだろうと期待をもちました。

第二課 青木記

第五回仙台営業所感謝祭 好評のワイングルメ会

平成三年度の感謝祭は、去る十一月二十二日(金)の午前十一時から午後五時まで仙台営業所で開催されました。昨年から仙台営業所の一員に加わった私としては初めての感謝祭への参加です。

一昨年、芋煮会から「ワイングルメの会」へと趣向を変え、好評だったための第二弾です。十一月二十二日(金)の午前十一時から午後五時まで仙台営業所で開催されました。昨年から仙台営業所の一員に加わった私としては初めての感謝祭への参加です。

H-52マイコンパイプレーターが二本まで使用できる他、通常の100V電機としても使えるのが魅力の商品であり、マイコンシリーズのラインアップが増えました。また、防音対策品として展示したのがMT-68SGKとMCD-104SGKで、仙台でも今後、役所の指定商品に期待している商品であります。この様な新製品を中心としながらも、今回初めての試みとして格安の中古ランマー・プレット・ローラーを展示したところ思いがけない売れ行きでした。お客様も仙台市の方々はもとより山形県や岩手県などの他県からお見えの方が目立つたことも今年の特徴でした。仙台営業所一同は、もちろんのこと、社員の家近所の人達がお手伝いに来てくれるなど、家庭的な雰囲気の中で成功させることができました。

さるほどに新しい年の巡り来たる人々みな寿の挨拶のべざるもの見当たらない。平成四年。暦によれば壬申(みずのえさる)とあり、明治二十九年生まれ96才、明治四十一年生まれ84才、大正九年生まれ72才、昭和七年生まれ60才、昭和十九年生まれ48才、昭和三十一年生まれ36才、昭和四十三年生まれ24才、昭和五十五年生まれ12才の皆様が歳おとこ歳おんなの称号を受けるわけでありました。サル(猿)の年生まれの性格は才気旺盛で活動家、赤裸で進取の気性の持主とか……しかし歳おとこ歳おんなだけに新しい年がきたわけじゃないし、そこで知り合いの高名な「易者様」に三笠ニュースの読者の皆様の今年の運勢を占ってもらいました。その結果を報告しましょう。

「明るい希望にみちみちた平成四年があなたの前に靴音も高らかに訪れて来ました。頭脳は冴え、計画力もあり実行力を発揮できる年です。ご自分の欠点を必ず目標は達せられ、仕事面も昨年以上に増加し活発に動くでしょう。異性間は恵まれ、ご

家庭内にも喜びがあります。五月と六月、九月、十月ごろに素晴らしいチャンスが訪れます。そのためには年頭から力を充実し物心とも余力を貯えておいて下さい」と。

以上が今年あなたの運勢でありアドバース。猿田彦大神の掛軸を前にうやうやしく占ってくださったのです。われら三笠産業は東京都千代田区猿樂町に本社をおきまして、猿にはいささかの縁故もございます。そこで只今からお聞きいただきます「猿さる巻」第一回は「猿さる巻」。

三笠本社のすぐお隣。千円札にもなっている夏目漱石の傑作『我が輩は猫である』の碑が建っています。猫が日本文学史に不朽の名を残したからと驚いてばかりいられない。昨年暮れには反省ザルのジローが文化庁から芸術祭賞をもらったではありませんか。

「猿まわし」の名で古くから親しまれる芸能のひとつ。その起源を探究して行く神話の世界にまで迷い込まなくてはなりません。猿樂町の名もそれに関連してまいります。九州は熊本県阿蘇の北側山中に小国町があり、この古老から聞きました。

「小国は日本の猿まわし発祥の地である」と。しかし後継者がなく絶えてしまった」と。

楽しく三笠親和会

台湾で過ごした3日間

今回、三笠親和会で私達が訪れたのは台湾。十月もまだ初めだというのに少し肌寒く感じられるような日本を後に、私達は台湾へと飛び立ちました。台湾は島の中央を北回帰線が走っているだけに、台北市内でも熱帯樹が目立ち、乾いた大気も南国

情緒を漂わせているように思いました。バスやタクシーの窓から見る風景は、看板の文字がほとんど漢字ということもあって日本の風景と余り変わらないようにも思いましたが、右側通行の車を見てやはり海外なんだなと納得しました。

自由行動が多い今回の旅行は、気ままに過ごせるので気楽な反面、自分で計画を立てなければならぬということ、一人一人が自分だけの思い出をつくること、出来たのではないかと思います。

龍山寺で現地のガイドさんの話を聞き、急に信心深く、熱心にお祈りしたり、忠烈祠で直立不動の衛兵の交替儀式をまねしてみたり。(みなさんも同じ事をしていませんか?)

三年に一度ドイツのミュンヘンで開かれる世界最大の国際建設見本市・バーマ展(建設機械と建設材料製造機械の国際貿易フェア)が今年の四月六日から十二日まで開催され、三笠は八六年、八九年に引き続き単独参加いたします。

バーマ展は今回で二十三回目を迎え、屋内外合わせて三十九万㎡(幕張メッセの三十倍の広さ)の会場に世界中から千五百社以上の有力企業が出品し、会期中の訪問者は一〇〇か国以上、二十五万人を数えます。

三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。

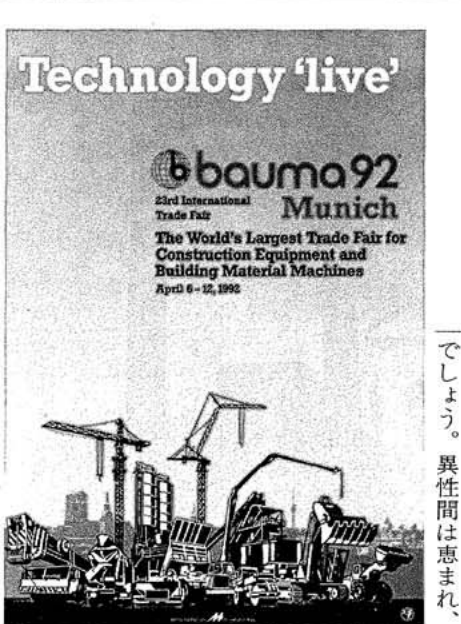
三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。



三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。

三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。

三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。



BAUMA '92のポスター

三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。

三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。

三笠はこの晴れ舞台に、新製品並びに主力製品を展示し、建設機械の本場ドイツから世界に向けてその優秀さをアピールします。



第1回

さて、面白うてやがて哀しき猿まわしの芸能を、民俗学的に考察すると猿樂町につながってまいります。そのすじの辞書を引いてみると「猿樂」は中国から渡来した散楽(さんがく)の系統または語り、とあり、それでは「散楽」を引いてみると「奈良時代に中国から伝来の奇術・軽業・曲芸など雑芸の類という。宮廷の公式楽である雅楽に対して通俗な芸能」とあります。

つまり雅楽と散楽はコンビでセットされたものだったんですね。しかし散楽はやがて宮廷から解放され一般民間に流行しむてはやされ、こうなると楽しむことなら民衆のほうが一枚上です。から忽ち面白い改良や種類の拡大工夫が加えられます。いわゆる余興にもなり大道芸にもなって町へ出て行く。また門付け芸といわれる春駒、獅子舞、猿まわし、鳥追い、人形まわしなどにも発展したわけ。

日本には神国なりというところ堅苦しいけど、よろず神の国で手当たり次第にカミサマを祀ってあります。大小さまざま、山にも川にも町にも村にも、そして家庭にはゴトの多いカミサンもいる。すると神社のゴリヤク感謝とPR、祈禱神事などに奉仕する所屬芸能グループも生まれて、それが矢張り散楽の猿樂人たち。神田祭りの氏神である神田明神は大社ですから沢山の芸人を必要としました。そのグループ根拠地こそ猿樂町だったことも明らかです。

駿河台の緑濃い岡の麓に沿って猿樂芸能者達の長屋が続いており、練習の鼓の音や舞いのリズムも聞え、晴れた日には白衣の洗濯物が乾かされたりするのどかな風景が、今の三笠本社前の道路だったと想像するとき、我らの町に親しみが湧いてくるではありませんか。これをもちまして「猿さる巻」第一回を終わりと致します。

太平記紀行 足利の里 みてある記

突然にハツとした。これほど足利のまちを巡りながら気が付かなかった一つの疑問が、何故かふいに湧いたのだ。

足利。あしかが。何の抵抗なく読んでいたが、考えてみれば難しい訓みかたである。そもそも「足利」とは何なのだ？

そういえば我が手にしている観光マップ「美しい自然と歴史のまち足利」にも足利のところがだけ振って仮名をつけてある。簡単な文字だが難読文学の部に入るのではない。

昔むかし源義家の孫が足利荘に土着して足利姓を名乗ったというのが足利氏の伝承だが、地名はすでにその時あったとすると、謎解きゲームの気分がくすぐられてくるではないか。よく地名伝説とか地名由来といった大方が独断と偏見とこじつけの固まりだけど、それならば我ら三笠ニュース編集陣も知恵をしぼり出して足利地名考にトライしてみても誰も叱りはないはずだ。地名辞典など資料も参考書も持っていない即席インスタントの思いつきで、まず類似地名をあげると足尾銅山あり熊にまたがりお馬の稽古の足柄山あり愛知県には足助という町も。ひとつ覚えだが箱根足柄山で切った材木を造船に利用したら凄いスピードが出たために「舟足が軽くて、これが足柄の地名由来だ」と風土記逸文に書いてあるそうだ。

古代の舟足はもちろん人間の足も極めて重要だった。足利氏の足舟と結びつけるのは大胆すぎるなら人間の足ではどう



ろう。各地に伝わる国境・村境決定の話の思い出した。同時に両者が出発して歩いた範囲を自分の土地とする。敏足を持つた者ほど土地は広いのである。足が利(き)いたのが勝ちというわけだ。判らない往古のことになるとアイヌ語だの朝鮮語だのが持ち出される。さてさてこの旅が終わったらじっくり調べてみることにしよう。

市街を出て北上する。にわか田園情緒がたゞよう風景がひろがって、道路も心やすらぐ曲線が多くなる。足利県立自然公園のセールスポイントとされる行道山浄因寺へと急ぐのだ。その山みちの中腹に、テレビに出



たという気むずかしい手打ちうどんの名人がいて聞いた。山寺へ登る途中で一杯のうどんにありつけるのは幸運と思いきや、それらしい粗末な家はあったが大が吹えるだけで留守である。名人気質というやつで今日は仕事で嫌になり町へ下ってソバでも食っているのかも。

昼なお暗い杉木立の下に小さな駐車場があって、ここが行き止まりだった。胸突きの急な石段を歩いてのぼることになる。行道山浄因寺。この寺は和銅六年(七一三年)行基の草創と伝えられ初めは真言宗。山岳信仰の霊場として栄え関東の高野山と言われたが、現在は臨済宗の関東四大道場とされている。境内には奇岩怪石が多く、堂宇は古ぼけた本堂・庫裏・清心亭などがあり、あたりを囲む老樹や荒々しい岩肌と調和して風情満ちたに豊かである。

つまり山岳信仰と修行の地だから豪壮を誇るような建築物は見られない。無住の寺かと思わせる静けさだが、番犬に注意の表示と、庫裏の縁の下に積まれた一升ピンが人の気配を感じさせた。鳥の声と梢を渡る風の音だけを聞きながら、ソバがきを肴に杯を運び人生を思い真理瞑想すれば、やがて陶然と酔いも回ろう。一夜こんな処で飲んでみたいと切に願うのである。

人里が恋しい。そこで山を駆け下りてNHK太平記セットめ

が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。



栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。



栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

栗田美術館の看板が目に付いたからだ。栗田美術館の看板が目に付いたからだ。

三笠クイズ VOL. 4

ア	B	C	E	
A	イ	1		
5	ウ		4	エ
	オ		D	
2		3	カ	

ヒント
ヨコのかぎ
ア. 桃太郎の〇〇〇〇〇
イ. 〇〇〇〇の島ハワイ
ウ. 時計を〇〇に入れる
エ. 布団の中身
オ. 花より〇〇〇
カ. 4コマ〇〇〇

タテのかぎ
A. 子供のお正月の楽しみ
B. タバコを吸い過ぎるとこれの中毒になります
C. 〇〇を吊る
D. 開け〇〇
E. 世に知られない話
F. 〇〇〇ドラマ

応募の方法 官製ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、職業(会社名)をお書きのうえ応募ください。正解者には抽選のうえ10名様に記念品を差し上げます。

●あて先 〒101 東京都千代田区猿樂町1-4-3
三笠産業株式会社
「三笠ニュース」編集室

●締切り 1992年1月31日(消印有効)

VOL. 3の答えは「コウラク」でした次の10名様に図書券をお送りしました。

大友美奈子様(勢多郡) 岡田裕美子様(新潟市) 小林一男様(中川郡) 小林信子様(上越市) 後藤慶生様(北蒲原郡) 高橋恵美子様(白石市) 宮脇政子様(北見市) 森ゆかり様(志摩郡) 森泉春枝様(佐久市) 渡辺好昭様(横浜市)

鈴木正樹
昭和42年 5月 9日
宮城県
第一営業部仙台課
独身



「日頃どんな仕事をしていま
すか？」
秋田県南部と山形県全域の
営業です。担当地域が広い為、
お客様の所に回るのに時間が
かかりますが、少しでも多く
のお客様の所に行けるよう、
効率の良い出張を組んで回
るよう心掛けています。同行販
売や納品といった事もやり、
お客様に少しでも喜んで頂け
るよう、三笠製品のPRに励
んでいます。

「いま最も関心を持っている
ことはなんですか？」
仙台は海にも山にも近いの
で、それを生かし、夏はサ
ー

我ら三笠グループ



木村辰也
昭和35年 2月 6日
群馬県
海外営業部
輸出二課
家族妻

「日頃どんな仕事をしていま
すか？」
東南アジア、中近東、アフ
リカを担当し、年に四、五回、
延べにして二か月以上は東南
アジア方面に出張し、各国の
代理店を訪問して受注活動、
技術指導そして商品説明など
を行っています。

「いま最も関心を持っている
ことはなんですか？」
最近、マック(マッキント
ッシュコンピュータ)を購
入し、家に帰るなり「スイッ
チオン!」という毎日で、結
婚二年目にして夫婦の危機が
起こりかけましたが妻にコン

株カンキ創立 30 周年の

記念展示会と感謝パーティー

平成三年八月二十三日から二十五日までの三日間、兵庫県神戸市に本社を置く我社の有力な代理店の株カンキ（本社・神戸市須磨区外浜町二一九一十九、社長桐月正邦氏）さんにおかれましては神戸市のポートアイランド記念ホール横広場で「カンキ創立 30 周年ビックフェア」を盛大に開催されました。



桐月社長の力もつたご挨拶の後、テープカット、鏡割り

が行われ、展示会の成功を祈った。また、八月二十三日午後五時三十分から神戸市中央区のホテルオークラ神戸で「創立三十周年記念感謝パーティー」を盛大に開催され、我社より小野社長夫妻、窪田取締役もお招きをうけ出席。来賓を代表して兵庫県

大垣機工株創立 45 周年 新本社ビルを竣工



我が社の永年の代理店として多大な協力を頂いておられます大垣機工株、大垣リース株、大垣機工サービス株（本社大垣市神田町一丁目二十五番地、社長奥田博万氏）さんに於かれましては、この度、創立四十五周年を記念され、大垣本社跡地に新本社及び大垣本店を竣工されました。鉄骨造り五階建て、述べ二千六百平方メートルの近代的な建物が大垣の街に偉容を誇っており、一階から三階までは大垣本店、四階から五階までは三社の本社が夫々置かれています。

同社は昭和二十一年三月、終戦で焼け野原になった大垣市郭町にてご創業者、奥田誠一氏が機械工具、土木建築金物類を販

売する個人商店として営業開始、昭和三十四年十月、大垣機工株に改組し故奥田栄一氏が代表取締役に就任、建築資材や建設機械の販売を主力とされ、その後機械工具、工作機械の分野に進出され、現在は機工、機軸、F A、建設機械部門があり営業エリアも岐阜県下はもとより滋賀、三重、愛知の各県に及び遠くは東京にまで二十五か所の営業拠点を持たれ今後益々のご活躍が期待されます。

なお、九月十一日には大勢のお取引先、仕入先をご招待され、本社ビルのご披露に続いて大垣フォーラムホテルにて、四十五周年記念式典及び披露パーティーが盛大に催されました。式典では奥田社長が先代社長より、社訓、積極進取の気性、経営の気迫、一隅を照らす人であれ、の言葉を披露され、社是として最新情報の発信基地として積極的な提案営業活動を展開し、地域社会の発展に貢献する企業として、社員の高福祉を実現し、今後はマイカンパニーからアワカンパニーに移行を目指している

と力強い宣言をされました。当日は我社から小野社長が出席し、奥田社長様はじめ社員の皆様にご挨拶を申し上げ

花岡社長より各協賛メーカー、商社に対してご挨拶を頂き、弊社も参加させて頂いて鏡割りが行われ、奥田部長の威勢のよい掛け声とともに乾杯が行われ華々しく開幕しました。

はた建設機械株が 本社ビル新築と落成式

大阪地区の当社代理店として、三十年以上の長きにわたりお取引ををお願いしておりますはた建設機械株（大阪府西淀川区本町三丁目十八番一十、代表取締役社長 三笠 泰貢）さんにはこの度、本社ビルを西区江戸堀に新築され、去る九月十四日盛大に落成式を挙行されました。



ご創業四十五年と業歴も古く、斯業界の老舗であり、泰貢会長さんは元大阪建設機械器具協会理事長であり、建設技能士の育成など公職にもご尽力され、建設大臣や大阪府知事などから叙勲や表彰を数多く受けられました。

その知名度の高さから新築落成式には大勢の関係者が列席されました。当社より小野社長が出席し、親しくお祝いを申し上げました。本社ビル新築落成を機に、より一層のご発展と会長様始め役員、社員の皆様の益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。三笠建設機械株 田中記

第一建機産業株・株第一リース 新築記念展示即売会



長野県北信地区の有力な代理店である、第一建機産業株さん（長野市若里形島一八二二一、社長 戸谷博美氏）また、東京三笠レンタル会員である株第一リースさん（社長 村松照公氏）に於かれましては、昨年十月十九日（土）、二十日（日）の二日間、本社新築を記念して展示即売会を開催されました。

初日は展示即売会に先立ち、記念式典が行われ、お祝いに参じた多数のメーカー、商社に対して戸谷、村松両社長より感謝のお言葉を頂き、引き続き鏡割、テープカットが行われ、展示即売会が開幕しました。三笠コ

各コーナーでは、最新の建設機械、省力化機械等が多数展示され、両日とも数多くのお客様が来場され、大きな商談がまとまるたびに威勢のいい三本締の音が響きわたり、次々にご成約の札がさがられました。三笠コ

第一課 菅原記

三笠建設機械株 守本記

宝物産株創立 50 周年パーティー



弊社の創立時よりお取引をお願いしております広島県の代理店、宝物産株株式会社（本社・広島市西区商工センター、代表取締役社長 末長 孝一）さんには、創業五十周年を記念して去る十一月九日、広島グランドホテル「孔雀の間」にてご盛大に感謝パーティーを開催されました。

第一課 菅原記

展示即売会当日は前日の土砂降りがうそのように晴れ渡り、

大型重機を積んだトレーラーが頻繁に出入りしても長期に渡る使用に耐えるように出来ているとのこと。